

「第3回 知の創成と検証に関する シンポジウム」報告

千葉 正喜

増永良文（青山学院大学）氏を研究代表者とする科学研究費のプロジェクトと札幌学院大学とで共同で開催してきた「知の創成と検証に関するシンポジウム」が、今回で3回を数えることになりました。

第1回目は、札幌学院大学社会情報学部が開設以来継続してきた「社会と情報に関するシンポジウム第20回」としても位置付けて開催されました。

これら3回のシンポジウムの副題はそれぞれ、以下のようになっています。

第一回：「集合知と社会情報学」社会情報学の構築を目指して

第二回：「集合知としての社会情報学：そのアイデンティティ」

第三回：「集合知としての社会情報学：そのコアとなる学問・知識分野と貢献」

この副題の系列の眺めると、社会情報学に関心を持つ、ここに参加するわれわれの課題意識とその進化がみえるように思います。今回はこれから一連のシンポジウムの最終回として、「社会情報学 BOK」の構築として結実する内容にできたのではないかと思います。

本紀要の以下の記事は、このシンポジウムの貴重な成果を記録し公表すべく、報告者にあらためて論文・報告としてご執筆いただいたものです。執筆者の方々には、あらためて感謝申し上げます。

なお、当日のプログラムを資料として掲載します。

資料：第3回シンポジウムプログラム

講演要旨